

## 第 1 回 冬期道路交通確保対策検討委員会主な意見

### (1) 全般に係る意見

- ・事前の情報提供、注意喚起、スタック等の問題が起きてしまった場合の迅速な対応が必要。
- ・立ち往生の大きな問題は大型車。道路管理者の対応もあるが利用者側の問題もある。運行のあり方として求めていかなければならない。
- ・物流業界、トラック業界の道路の使い方のあり方、トラック運行のあり方について、利用者側の観点から、ルール化も必要。
- ・関係者それぞれの役割と連携が重要。大雪の場合の地域の対応のあり方等について、議論することも必要。
- ・社会全体として、雪への対応が必要。
- ・過去の事例から学ぶことが必要。

### (2) 個別の意見

#### 1) 情報提供

- ・ドライバーへの最新のデータ提供（ETC2.0の活用）、カメラでの監視強化や道路上の情報板による効果的な表示が必要。
- ・事前情報提供の精度（ポイント、時間等）を上げて迂回を促すことが必要。
- ・道路交通情報の出し方も工夫が必要。

#### 2) 需要抑制

- ・外出抑制の緊急発表では、企業等に日頃から協力を求めることが必要。
- ・緊急発表によって、出勤の見合わせや学校の休校等の措置がとられることが重要。産業界や学校もあわせて対策しなければ、不要不急の対策ができない。
- ・NY等は緊急事態宣言をしている。都市部では、ある程度の雪が降り日常生活が麻痺しそうな時は、そのような覚悟を持った情報提供が必要。

### (3) その他の意見

- ・地方部でのオペレーター不足も問題のひとつ。
- ・雪のピンポイントな予測は難しいことを前提にした対応が必要。
- ・都市部の20cmの積雪の場合と比べ、福井のような豪雪地帯の場合、大雪で動けなくなると命の危険を伴うため、対応について分けて考えるべき。